

引き継がれるひとつのバトン



高山辰雄「青衣の少女」1984年 公益財団法人古川文化振興財団蔵

会期中のイベント



松村公嗣
アーティストトーク

日時： 各日14:00～

10月19日(土)

12月6日(金)

場所：古川美術館展示室
参加無料(展覧会チケット
が別途必要)



平松礼二「春山水・ジャポン」2003年 町立瀬河原美術館蔵

高山辰雄 平松礼二 松村公嗣

文藝春秋表紙絵とその芸術

松村公嗣「はだか祭」2007年

《お知らせとお詫び》

「平松礼二アーティスト
トーク」11月3日(日・祝)
は、作家都合により中止と
いたします。
深くお詫び申し上げますと
ともに、何卒ご理解、ご容
赦を賜りますようお願い申
し上げます。

10月19日[土]—12月8日[日]
古川美術館

開館時間 | 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 | 月曜日 ただし、11月4日(月・連休)は開館、翌日休館

主催 | 公益財団法人 古川知足会

後援 | 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、
愛知県立大学法人愛知県立芸術大学、愛知大学、
中日新聞社、CBCテレビ、
スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社

協力 | 松坂屋美術館



【お問い合わせ】

公益財団法人 古川知足会 古川美術館・分館 為三郎記念館

電話052-763-1991 FAX052-763-1994(学芸課)

〒464-0066 名古屋市千種区池下町2丁目50番地

【アクセス】名古屋市営地下鉄 東山線「池下」駅より徒歩3分

展覧会担当学芸員

小柳津綾子(a_suzuki@furukawa-museum.or.jp)

広報担当学芸員

山内綾子(a_yamauchi@furukawa-museum.or.jp)

日本画界を牽引する高山辰雄・平松礼二・松村公嗣は、月刊誌『文藝春秋』表紙絵を描き、それぞれにバトンをつないできた。本展では、『文藝春秋』表紙絵を彩った小サイズの原画とともに、独自の世界を築いた日本画の大作も紹介！

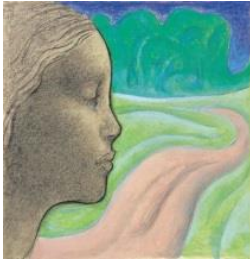
高山辰雄・平松礼二・松村公嗣

テーマ 1

季節を彩る

『文藝春秋』表紙絵の原画を一堂に！

高山辰雄



高山辰雄『文藝春秋』表紙絵

1987年から13年間担当 156点制作

書籍と同サイズの小さな画面に、珠玉の時を刻む。季節の彩りとともに身近な風景、静物、人物を描き、無限なる世界を表出。

《本展出品》

[文藝春秋表紙絵原画3年分 計36点 \(1988年、1991年、1995年\)](#)

公益財団法人角川文化振興財団蔵

高山辰雄「緑風」文藝春秋表紙絵
1995年6月号
公益財団法人角川文化振興財団蔵

平松礼二



平松礼二『文藝春秋』表紙絵

2000年から11年間担当 132点制作

日本各地や日本と縁の深い外国を旅して、新しい日本画の創造

《本展出品》

[文藝春秋表紙絵原画1年分 計12点](#)

2003年1月 名古屋城（愛知）★画像1

2009年2月 早春譜（日本）

2000年3月 印象 日の出 ★画像2

2005年4月 さくら咲く（神戸）

2009年5月 モネの庭（フランス）

2004年6月 竹林にて（宮崎）

2000年7月 モネの池・夏

2004年8月 南海道（愛媛）

2005年9月 空也上人（京都）

2005年10月 伊良湖岬（愛知）★画像3

2010年11月 日蘭秋華図（長崎）

2010年12月 「仁」佐藤尚中（千葉）

全て町立湯河原美術館寄託

★画像1



★画像2



★画像3

松村公嗣

★画像1
2018年1月
鴟尾夕照



★画像2
2018年8月
縞馬



★画像3
2018年9月
花芙蓉



松村公嗣『文藝春秋』表紙絵

2011年から現在まで 100余点

大自然や悠久の歴史を持つ神事から、身近な干し柿まで、圧倒的な画面構成で、そのものの持つ魅力を美へと昇華

〈本展出品〉

文藝春秋表紙絵原画1年分(2018年)計12点

- | | |
|----------|-----------|
| 2018年1月 | 鴟尾夕照 ★画像1 |
| 2018年2月 | 雪解け |
| 2018年3月 | 梅盛り |
| 2018年4月 | 糸操り人形 |
| 2018年5月 | 藤棚 |
| 2018年6月 | 薔薇園 |
| 2018年7月 | クラゲ |
| 2018年8月 | 縞馬 ★画像2 |
| 2018年9月 | 花芙蓉 ★画像3 |
| 2018年10月 | サマルカンドのひと |
| 2018年11月 | 干し柿 |
| 2018年12月 | 蘭陵王 |

テーマ 2

高山辰雄・平松礼二・松村公嗣 辿りついた独自の「日本画」

高山辰雄

森羅万象の生命を描き、生きることの神秘を感じさせる精神性の高い絵画を追及し、文化勲章を受章。

〈本展出品〉

「青衣の少女」1984年 75.5×100 公益財団法人角川文化振興財団蔵

「牡丹 洛陽の朝」2004年 220.0×134.0 第36回改組日展

★高山辰雄が焼群緑（やきぐんろく）で描いた最大の牡丹。

「海に見える路」1998年 116.7×90.9 両洋の眼1998

「椿（赤）」1992年 87.1×115.6

「暈」2007年 65.2×50.0 第42回日春展



「暈（かさ）」は、高山辰雄が生前描いた最後の完成作品。（2007年9月95歳で逝去。「月光に浮かぶ峰々」と同時に完成）

平松礼二

革新的な日本画を目指した「路」シリーズや、日本絵画の本質的な装飾性や様式美に着目した遊び心あふれる「ジャポニスム」シリーズを展開。ジヴェルニー印象派美術館など世界でも注目されている。

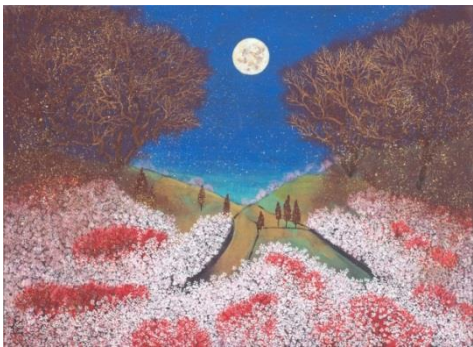
《本展出品》 全て湯河原美術館蔵

「春山水・ジャポン」2003年 2曲1隻 190.0×170.0

「ゴッホが写した江戸の梅（I）」1998年 2曲1隻 168.5×171.0 ★画像 1

「路・月の光」1987年 53×72.7 ★紺碧の夜空に月が浮かぶ夢幻の花世界。

「ジャポニスムへの旅 モネの池に桜」1999年 44.5×100 ★画像 2



★画像 1



★画像 2

松村公嗣

国内外の風景や自然、人との出逢いから得た感動を多彩なテーマで展開。時に叙情的に、時に力強く、いのちの輝きを表現

《本展出品》

「刻」1994年 103×103cm 第49回春の院展（奨励賞）

★チベットの老女を取材。見事な顔のシワに刻まれた人の歴史の奥深さ。★画像 3

「はだか祭」2007年 四曲一隻 210×416cm 再興第92回院展（内閣総理大臣賞）

★国府宮の神事の神々しさと熱気を抑えた色彩で表現。

「森の住人」2016年 90.6×116.7cm 第71回春の院展 ★画像 4



★画像 3



★画像 4

掲載可能画像は下記の6つです。画像データご希望の場合は御連絡ください。メールにてお送りします。
高山辰雄作品は、著作権申請のため、発行部数(期間)、利用サイズ等、使用内容の概要をお知らせください。

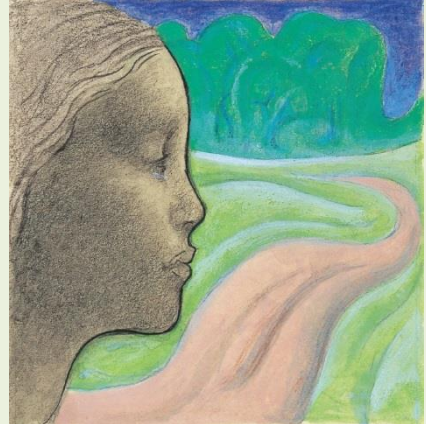
①



①高山辰雄「青衣の少女」1984年
公益財団法人角川文化振興財団蔵

④

高山辰雄



④高山辰雄「緑風」文藝春秋表紙絵1995年6月号
公益財団法人角川文化振興財団蔵

②



②平松礼二「春山水・ジャポン」2003年
町立湯河原美術館蔵

⑤

平松礼二



⑤平松礼二「竹林にて(宮崎)」文藝春秋表紙絵2004年6月号
町立湯河原美術館寄託

③



③松村公嗣「はだか祭」2007年

⑥

松村公嗣



⑥松村公嗣「サマルカンドのひと」
文藝春秋表紙絵2018年10月号

【お問い合わせ】

古川美術館 電話052-763-1991 FAX052-763-1994(学芸課)
展覧会担当学芸員 小柳津綾子(a_suzuki@furukawa-museum.or.jp)
広報担当学芸員 山内綾子(a_yamauchi@furukawa-museum.or.jp)